

我が社 次の一手 ミヤコシ(習志野市)

独自性高い技術に力 - 印刷機開発前に手軽に特許検索 -

業務用印刷機の製造・販売を手掛けるミヤコシ(千葉県習志野市、宮腰巖社長)が研究開発体制の見直しを進めている。印刷機に関する特許を手軽に調べられる検索ソフトを独自に開発。事前に関連特許がないかを調べた上で研究開発を始めるよう技術者に呼びかける。他社の特許を侵害しない「守り」と、独自性の高い技術を開発する「攻め」の両立を目指す。

JR 津田沼駅にほど近い本社内の特許・知財管理室で検索ソフトの改良が進む。パソコン画面の印刷のイラストは「給紙」や「印刷部」など大まかな機能を示し、さらに細かく部品の名前も書いてある。

試しに給紙カテゴリの中にある部品の名前をクリックすると、関連する特許の要約の一覧が画面に表示された。ソフト開発を進める加藤悟課長代理は「部品の正確な名前を知らなくても直感的に特許情報を検索できる」と胸を張る。

4月に運用を始めた時は、クリックすると特許の番号を表示するだけだった。「特許情報を読むには、さらに番号を特許庁のデータベースに打ち込む必要があった」(同)。来春をメドに特許情報に直接アクセスできる改良版の運用を始める計画だ。

ミヤコシはもともと業務用のオフセット印刷機が主力だった。オフセット印刷の歴史は古く「技術の基盤となる特許はほとんどが期限切れだった」(同)。これまで特許侵害を気にしたり、特許取得に力を入れたりする必要は薄かった。

近年は大量印刷が主だった業務用印刷でも、カタログやポスターなどを少量多品種で刷る需要が目立ち始めた。そこで5年ほど前に業務用インクジェットプリンターの開発に着手した。

研究開発を進める中でキャノンやエプソンなどの膨大な特許網に突き当たった。国内だけで年に15,000件もの特許出願があると知り、「他社の特許に抵触するリスクの大きさに衝撃を受けた」(宮腰潔監査役)。

子会社も含め印刷機的设计・開発に携わる技術者は約100人いるが、社内の特許出願は「年に10~20件程度だった」からだ。2年前に経済産業省の補助事業に申し込み、半年かけて研究開発体制を見直した。

今後は全員に検索ソフトの利用を促し、図面を引く前に先行特許を調べてもらう。そのうえで特許・知財管理室の6人のメンバーが研究開発の各段階に加わり技術者と議論を交わす。宮腰監査役は「技術者は特許検索も仕事のひとつと思ってほしい」と発破をかける。

すでにインクジェットプリンター関連の売上高は全体の6割を占める。OEM(相手先ブランドによる生産)供給から自社ブランドの製品販売への切り替えも進み、知的財産の管理の重要性は増す。新体制で他社の特許の侵害を防ぎ、大手もほしがる独創性の高い特許を取得する」のが目標だ。

(2012年11月23日 日本経済新聞 千葉版 掲載)